

第一部 メディア・アートと社会 —東日本大震災からの変容—

2011年3月11日に起こった巨大地震と大津波、それに続いた原発事故は、現代日本の社会の在り方を根本的に問う出来事でした。

従来のマス・メディアに加え、インターネットやそれに基づく数々のソーシャル・メディアというツールが、被災地と全国とをむすぶ新しい役割を果たしたことは確かです。しかし、それらの多くのメディアをもってしても、往々にして情報は一方的で、被災地とそれ以外の地域との間の相互作用的なコミュニケーション、すなわち「協働」という関係は、なかなか生み出されなかったように思います。

今回の「デジタル・インターコネクション2013」第一部では、1日目の10月26日(土)に、アーティストの方々、会津を拠点とする編集者、そして情報システムの研究者をお招きして、被災地の求めるものとアーティストの熱意とを結びつける、相互作用のメディア・コミュニケーションの将来像を探ります。

2日目の10月27日(日)は、「東日本大震災アーカイブ」を、制作者である首都大学東京の渡邊英徳氏にプレゼンテーションしていただきます。「東日本大震災アーカイブ」は、震災の被害状況を可視化し、災害の実相を世界につたえる多元的デジタル・アーカイブズであり、同時に、その芸術的価値が認められ、今年のアルス・エレクトロニカで栄誉賞を受けたプロジェクトです。



©Hidenori Watanabe



©Tokio Maruyama



©Yoshiko Maruyama



©Ryosuke Sakuma

10月26日(土) 14:00~16:00

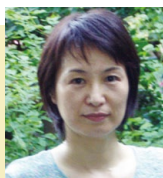
パネル・ディスカッション

「3.11とアート —そのプラットフォームの在り方—

■パネラー紹介

丸山 常生 (まるやま・ときお/アーティスト)

美術家・パフォーマンスアーティスト。身体、居住空間、都市などを包括する広義の「環境」から、記憶や予感を彷彿させる様々な断片を抽出し、インスタレーション(install-action)という「もの作り」と「こと作り」を統合した方法論で再構成する作品を発表。埋立地や被災地を記録した写真も撮り続けている。



丸山 芳子 (まるやま・よしこ/アーティスト)

社会、歴史、土地にまつわる事象や昆虫の生態からも、人の本質や人間性を読み解く試みを重ね、インスタレーションや絵画によって視覚化している。国内外での発表と平行して、展覧会の企画運営も行ない、本年より、東北と北方世界の表現に共通項を探るアートプロジェクト「精神の<北>へ」を、郷里福島で開始する。

遠藤 由美子 (えんどう・ゆみこ/編集者)

1949年福島県三島町生まれ。1997年、奥会津地域の文化の掘り起こしと継承を目的に、有志の出版グループ「奥会津書房」を設立。代表兼編集長。主な出版物に、効率や経済一辺倒の社会に一石を投じる『自然からの伝言』『森に生まれた手仕事』等奥会津文化シリーズ5部作『会津学』シリーズ(会津学研究会編)『イザベラ・バードの会津紀行』(著者・赤坂憲雄他)等。



佐久間 亮介 (さくま・りょうすけ/情報システム研究者)

福島県出身。首都大学東京システムデザイン学部在学中。被災地の声とは関わりなく進められる東京主導型の各種プロジェクトのあり方に疑問を抱き、「福声(ふくこえ)」と題した、被災地の声を集約し、それを他の地域に暮らす人たちに伝え、交流を促す新しいプラットフォームを構築中。

10月27日(日) 14:00~16:00

プレゼンテーション

「東日本大震災アーカイブ」

■講師紹介

渡邊 英徳 (わたなべ・ひでのり/情報アーキテクト)

「東日本大震災アーカイブ」「ヒロシマ・アーカイブ」「ナガサキ・アーカイブ」などを制作。沖縄県「沖縄平和学習アーカイブ」では総合監修を務める。現在、株式会社フォン代表、首都大学東京システムデザイン学部准教授、京都大学地域研究統合情報センター客員准教授などを務める。

『「東日本大震災アーカイブ」』は、被災地の写真とパノラマ画像、被災者の証言、ジオタグ付きツイートなどを一元化し、デジタル地球儀の三次元地形に重ね、俯瞰的に閲覧することができます。さらにタイムスライダ機能も備えており、震災発生後の時間経過に沿って、資料を閲覧できます。東日本大震災の実相を後世に伝えることを目的としたものです。

また、東日本大震災後に蓄積されたビッグデータを活用し、震災発生直後の状況を可視化する試みも行なっています。まず、半減期が8.1日と短いため、福島第一原子力発電所事故発生後の実態が掴めていない放射性ヨウ素の拡散状況を、研究機関による複数のシミュレーション・データを重層することで可視化するプロジェクト、そして、東日本大震災発生後24時間のニュース報道の書き起こしデータから、TV報道された場所/されなかった場所を抽出し「報道空白域」を可視化するプロジェクトです。』



第二部

学生メディア・アート展 2013 11/16(土)~24(日) 10:00~17:00

今年で第11回を迎える、町田市立国際版画美術館の「学生メディア・アート展」。大学や大学院で学ぶ若いアーティストたちの、斬新な作品の数々をご覧ください。来場者が操作することができる体験型の作品もありますので、お子様からお年寄りまでお楽しみいただけます。

11/23(土・祝) 13:00~17:00

「作者による作品プレゼンテーション」



町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 tel.042-726-2771/0860
小田急線/JR横浜線町田駅より徒歩15分 <http://hanga-museum.jp/>

